

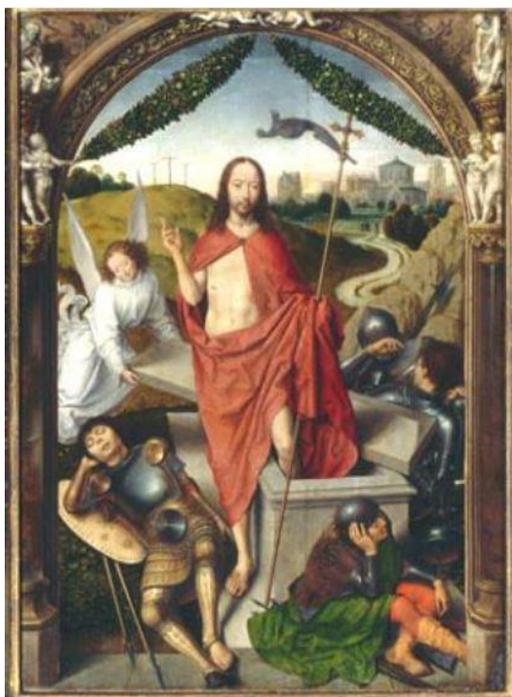


カトリック

三軒茶屋教会

おとずれ

2016年3月27日発行 第61巻 第2号



復活祭号

花 (桜)

主任司祭 ミカエル 湯澤 民夫 神父

ご復活、おめでとうございます。最初の頃の予想では、今年は、桜の開花がご復活にあたると言われていましたが、一週間早めに開花宣言が出そうです。六本木の毛利庭園では、既に開花したとか。多摩川の堤では、もうすっかり早咲きの桜は咲いているでしょう。今年は、まだ見ていませんが、ご復活の週は、瀬田と田園調布で全国侍者会があるので、見られるでしょう。

瀬田の共同体に移ってからは、高齢者がいるために、修道院を挙げて旅行することや、外食することもできなくなりましたが、田園調布の共同体に属していた頃は、毎年、ご復活後に共同体で旅行に行っていました。今年のように、三月末にご復活の時は、ソメイヨシノが満開であることが多かったのですが、四月に入ると、むしろ山の中に自然に生えている山桜などを見ることがありました。そして、それはそれで、また素晴らしいものでした。

みょうじょう幼稚園の園庭にあった大島桜かな。見事でした。瀬田では、修道院の門を入れてすぐの聖堂前に、見事な桜があり、門前にも一本、坂を下ってかつての信徒会館のところにも数本ありました。神学院の新学期は、見事な桜で始まったものでした。今は、ほとんどなくなりました。なくなったと言えば、昔、田園調布駅から多摩川園駅にかけて、東横線沿線に見事な桜並木がありました。複々線化ですべて切り払われた時は、残念に思いましたが、新たに若木が植えられてみると、今はもう素晴らしい若い桜並木になっています。

これらは、造られた自然かもしれませんが、自然の素晴らしさを感じさせてくれます。「初めに、神は天地を創造された」で始まる創世記の自然賛美も素晴らしいと思いますが、やはり日本の春の自然は、それとはまた違ったものを感じさせてくれます。光と闇、天の青と海の青、海の青と陸地の緑。太陽と月や星、空の鳥と水中の魚、陸の動物と人間。それは、凄いパノラマで、こうして創造された世界を通して神を賛美することも、一つの自然の感じ方なのでしょう。創世記の最初の天地創造の話は、創造というより、被造物の賛美歌に感じられてなりません。

フランシスコ教皇が『ラウダート・シ』という文書を出されましたが、『ラウダート・シ・オー・シニョーレ (主を称えよ)』という聖フランチェスコの『太陽の賛歌 (被造物の賛歌)』もまた、『創世記』とは違った自然賛歌でしょう。日本では、「花」といったら、たいてい桜の花を意味しているようです。桜に始まり、マリア月、初夏の新緑までの様々な桜の花は、様々な種類の桜の花が咲くことそれ自体が、自然賛歌のように感じられます。「花」を見ながら、自然を、また、自然を作られた神様を賛美できたらと思います。

2016年9月4日マザー・テレサの列聖が決定 (3月15日枢機卿会議で教皇フランシスコが決済)

教皇フランシスコは15日、バチカンで開かれた枢機卿会議の席で、マザー・テレサら5人の福者の列聖を承認する教令に署名した。バチカン放送局日本語版が同日報じた。

それによると、これによって列聖が承認されたのは、次の5人の福者。また教令にはそれぞれの列聖式の日取りが明記された。

コルカタのテレサ（マザー・テレサ、本名：アグネス・ゴンジャ・ボヤジュ、1910～1997年）列聖式：2016年9月4日、▽マリア・エリザベッタ・ハッセルブラッド（1870～1957年）列聖式：2016年6月5日、▽スタニスラオ・ディ・ジェズ・マリア（本名ヤン・パプチンスキ、1631～1701年）列聖式：2016年6月5日、▽ホセ・ガブリエレ・デル・ロサリオ・ブロチェロ（1840～1914年）列聖式2016年10月16日、▽ホセ・サンチェス・デル・リオ（1913～1928年）列聖式：2016年10月16日

神の愛の宣教者会の創立者で、貧しい人々、孤独や疎外に苦しむ人々のために生涯をささげたコルカタのマザー・テレサの列聖式は、今年9月4日（日）に決定。

「いつくしみの聖人」として、この特別聖年にふさわしい列聖となった。マリア・エリザベッタ・ハッセルブラッドは、スウェーデンに生まれ、米国に移民として渡り、ニューヨークの病院で看護婦として働く中、召命を得た。ローマで聖ブリジダ会を再建した。

スタニスラオ・ディ・ジェズ・マリア神父は、ポーランドでマリア司祭会を創立。優れた説教師、聴罪司祭として活躍し、煉獄（れんごく）の魂の救いのために祈り、地方の貧しい人々のために尽くした。

ホセ・ガブリエレ・デル・ロサリオ・ブロチェロ神父は、アルゼンチンで「ガウチョの司祭」として親しまれた。あらゆる場所にラバの背に乗って赴き、自らも貧しさを貫きながら、人々に寄り添う司牧を行った。

ホセ・サンチェス・デル・リオは、信仰における勇気を証した若い殉教者。メキシコにおけるカトリック迫害への抵抗運動が「クリステロ戦争」へと発展する中、14歳で捕らえられ、拷問を受けたが、信仰を否定することなく、「ヴィヴァ、王なるキリスト、ヴィヴァ、グアダルーペの聖母」と叫び、殉教した。

(3月16日 CHRISTIAN TODAY ニュースより会耳土地に転載)

四旬節黙想会『主の受難に満ちるいつくしみ』の要点

コンベンツアル聖フランシスコ修道会 谷崎新一郎

2月28日(日)の四旬節黙想会では、忍耐強くわたしの拙いお話を聞いてくださり、ありがとうございました。以下に、内容をまとめさせていただきます。

1. ミサの説教

回心という言葉は、神様のほうへ向かうことを意味します。自分の狭い考え方ではなく、愛情いっぱいの神様の深いやさしさを思い起こし、神様に助けをもらいつつ、少しずつ愛情いっぱいの生き方をしていくことを指すでしょう。幼稚園では、園児がケンカをすると、先生たちが同じ目線にかがみ込み、仲直りをさせます。ケンカをしたり悪口を言ったりするときは、自分ではなくて相手の人が悪いと思っています。でも、いつまでも「あいつが悪い」と思うのは、愛情いっぱいの神様の心とは違うかな、と思います。「主の祈り」では、「わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします」と唱えます。自分では「きらいだな。心が痛いな」と思っても、神様はいつもわたしたちにとってもやさしくしてくださるので、そのやさしさを生きるよう招かれています。

今日の福音箇所イエス様が触れておられる事件と事故について、人々は「自分は悪くない。悪いのは殺された人や事故で亡くなった人」と考えているようです。悲しい出来事や難しいことがあるときには誰かを悪者にして満足せずに愛情いっぱいのやさしさに生かされるよう、招かれています。

後半では、愛情いっぱいに忍耐強く実りを待つ園丁の姿を通して、神様の限りないやさしさが表現されています。教会や人との関係において問題があると、それを早く解決したくなります。しかし、わたしたちは、幼子イエス様、十字架のイエス様、聖体のイエス様のように愛情いっぱいにへりくだりながら、みんなの気持ちを受けとめて、問題を解決しようとしているのでしょうか。自分の考えや計画ばかりを押し進めたり、自分の気持ちばかりお話ししたりせず、少し待ちながら、他の人たちの気持ちを心でよく感じ取ることも大切です。

こういうことを思いめぐらす中で、「イエス様のように愛情いっぱいに生きられない」と心が痛むなら、あまり長い間がっかりしないようにしましょう。神様のやさしさ、あたたかさを思い起こして、神様に素直に助けをお願いしましょう。神様のやさしさがほんとうに素敵で限りないことを思いめぐらしていると、気づかないうちに少しずつ神様のやさしさに生かされると思います。

2. 第一講話

第一講話では、ルカ福音書23章26節から49節までの受難の場面を味わいました。

①わたしたちもそれぞれ自分の十字架を少しずつ担っています。キレネ人シモンがイエス様の十字架を担ったように、自分から望んで受ける十字架ではない場合もありますが、そのような状態であっても少しずつイエス様のように愛情いっぱい生きるよう招かれています。

②婦人たちは泣きながらイエス様の後に従いましたが、イエス様は、「わたしのために泣いている場合ではないよ。神様のやさしさを思い出して、そのやさしさにもっと生かされてほしい」とおっしゃりたいように見えます。

③「十字架につける」という言葉はルカ福音書ではイエス様だけに用いられていますが、二人の犯罪人も十字架につけられます。わたしたちもこの犯罪人のようにイエス様の十字架と一つに結ばれるよう招かれています。

④みんなイエス様のことを「メシア（救い主）」「神の子」「王」などと呼んで侮辱します。多くの方は、「救い主は力強い人だ」と思っています。しかし、イエス様はご自分のためには何も行わず、十字架にかかったままです。わたしたちのすべてを受けとめるために、愛情いっぱいへりくだる方です。

⑤しかし犯罪人の一人は、「イエス様、あなたはほんとうに愛情いっぱいに生きた人ですから天国に行くでしょう。わたしは犯罪人ですけれど、わたしのことも思い出してください」といった気持ちを言葉にしました。イエス様は、「大丈夫、今日あなたはわたしと一緒に天国にいるよ」といった内容を仰せになりました。悪いこと、ひどいことをした人をわたしたちは裁きがちですが、神様にとってはどんな人も大切です。そのやさしさを思い起こすと、わたしたちも少しずつやさしくなれるのではないのでしょうか。

⑥イエス様が亡くなる前に神殿の垂れ幕が裂けました。垂れ幕の奥には、十戒という神様が言葉を書いた石の板がありました。あまりに大切な物なのでほとんどの人は見られませんでした。垂れ幕が裂けたのでみんなに見えるようになりました。聖体のイエス様は、普段は扉の閉まった聖櫃の中におられますが、ミサの中では、わたしたちと一つになってたくさん愛情を伝えるため、小さな姿でわたしたちのところに来てくださいます。

⑦イエス様は、亡くなる際に「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」と仰せになりました。いただいた命をお返しします、と仰せになります。わたしたちは、いつ死を迎えるか知りません。普通は、「死ぬのは怖い。嫌だ!」と思うでしょう。しかし最期には、「神様、みんな、支えてくれてありがとう」という気持ちで

神様に命をお返しできたら素晴らしいと思います。

⑧百人隊長は、「本当に、この人は正しい人だった」と言いました。「正しい人」という言葉には、悪いことをしていない人をイメージするかもしれませんが、愛情いっぱいの神様の望み、やさしさを完全に生きた人を指すでしょう。

⑨イエス様が亡くなった後、「胸を打つ」人たちもいました。これは、悪いことをしたな、ほんとうにこの人は救い主だったな、と思う様子を示しているようです。しかし、まだこのときは、イエス様のように生きる勇気がありませんでした。聖霊が降った後、はじめてその勇気が出てきました。皆さんの中にも聖霊がおられます。愛情いっぱいのイエス様のように生きることは難しいように見えますが、イエス様のやさしさに思いめぐらす中で、聖霊がわたしたちの中で少しずつ働いて、イエス様のように生きられるでしょう。

3. 第二講話

第二講話では、ヨハネ福音書19章16節から27節までを味わいました。

①ピラトがイエス様を人々に引き渡し、人々がイエス様を引き取る様子は、信仰のまなざしで味わうと、わたしたちのもとにイエス様が来てくださり、わたしたちがイエス様を受け入れる様子も示唆しています。

②ヨハネ福音書では、キレネ人シモンがイエス様の十字架を担う話はなく、イエス様がすすんで十字架を担う様子が強調されます。福音書はそれぞれの形でイエス様の十字架の場面を描きます。マルコ福音書は、徹底的にへりくだるイエス様の様子を示し、わたしたちも同じようにへりくだるよう招きます。ルカ福音書は、そのへりくだりに愛とゆるしが満ちていることを強調し、わたしたちも愛とゆるしのうちにへりくだるよう促します。ヨハネ福音書は、このイエス様の生き方がほんとうに素晴らしいものであると意識するよう招きます。

③十字架上によく記されている「INRI」という文字は、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」という言葉から、一部分の文字をとったものです。実際には、ヘブライ語(イスラエルにとって聖なる言葉)、ラテン語(ローマ帝国の言葉)、ギリシャ語(その地方に広まっていた言葉)で記されていました。このことを信仰のまなざしで味わうと、イエス様がほんとうの愛情に満ちた王様であり、イエス様のやさしさが世界に広まる様子を思い起こすことができます。

④兵士が服を四つに分けながらも下着を分けなかった様子と、十字架のもとに4人の女性が一つに集う様子は、象徴的な意味で結ばれているでしょう。つまり、教会が全世界に広まりながらも一つであることをほのめかしています。三軒茶屋教会の信者さんたちも、生まれた場所、性別、年齢、性格など様々な違いがあり

ますが、愛情いっぱい十字架のもとに一つに集っています。

⑤十字架のイエス様のもとには、マリア様と「愛する弟子」がいます。「愛する弟子」は伝統的に使徒聖ヨハネと言われますが、名前がないことにほんとうの意味があるでしょう。愛する弟子はわたしたちを象徴します。わたしたちはみんなイエス様から愛されており、イエス様のように生きる弟子だからです。

⑥イエス様は、マリア様のことを「婦人よ」と呼んでおられます。なぜ「お母さん」と呼ばないのでしょうか。一見冷たいように感じるかもしれません。カナの婚礼でも「婦人よ」と呼んでおられます。これは、マリア様がイエス様のお母さんだけでなく、みんなにとっても愛情いっぱいのお母さんであることを示す心やさしい呼びかけです。わたしたちも、他の人の中に愛情や素晴らしさを見つけながら、あたたかな気持ちで他の人の名前を呼ぶるといいですね。

⑦イエス様は、マリア様と「愛する弟子」に「見なさい」と仰せになって、双方をお示しになりました。イスラエルでは、目と心が深く結ばれていると考えています。ですから、イエス様が「見る」場合には、深く受けとめてくださっていることを意味します。わたしたちも、教会、家庭、職場の中で、他の人の気持ちをあたたかく深く受けとめられるといいな、と思います。「イエス様のように」受けとめようとする心が大切だと思います。なぜならわたしたちは、「キリスト者」と呼ばれているのですから。

⑧福音書において「家」という言葉は教会共同体をも象徴しています。というのも初期の教会では、今日のような教会建築物はなく、信者さんの家に集まって祈りと分かち合いを行っていたからです。ですから、「愛する弟子」がマリア様を家に引き取る様子は、三軒茶屋教会にマリア様をお母さんとして迎え入れるよう促します。世のお母さんたちが家庭でどのようなことをしているかを思い起こしながら、心やさしいマリア様が教会共同体のために愛情いっぱいにどのようなことをしてくださるのかを思いめぐらすと、教会共同体はとてもあたたかなものになっていくのではないのでしょうか。

2016年 年間行事予定

2016年2月23日

月	日	曜	写	教会行事	その他行事	教会委員会・合同会議
1	1	金		神の母聖マリア(祭)・新年のミサ		教会委員会は、原則第2日曜日に開催。合同会議は、原則2ヶ月に1回(偶数月第3日曜日)開催。 教会委員会(17日12:15~)
	3	日		主の公現(祭)	[幼]始業式(8日・金)	
	10	日	●	新年会・新成人祝賀会〔茶〕・馬小屋撤収	聖体事仕者合同研修会②(当教会)	
	17	日			[ポ]餅つき(31日・日)	
	24	日			聖体事仕者合同研修会③(瀬田)	
2	31	日			聖体事仕者合同研修会④(渋谷)	
	7	日				
	10	水		灰の水曜日		
	14	日		四旬節第1主日		
	21	日				
3	28	日		四旬節黙想会(ミサ:9:30~)		
	8	日				
	13	日			[幼]卒園式(12日・土)	
	20	日		枝の主日	[幼]修了式(14日・月)	
	24	木		聖木曜日(主の晩さん)・洗足式		
4	25	金		聖金曜日(主の受難)		
	26	土	●	聖土曜日・復活徹夜祭・洗礼式		
	27	日	●	復活の主日・復活祭・洗礼式〔茶〕		
	3	日			[教・ポ]大掃除(3・日)	
	10	日			[幼]入園式(9日・土)	
5	17	日			[ポ]上進式(10日・日)	
	24	日				
	1	日				
	8	日		マリア祭(祭)	[協]玉川通宣教協力体会議(6日)	
	15	日		主の昇天(祭)	教会委員会(13日12:15~)	
6	22	日		聖霊降臨の主日(祭)		
	29	日		キリストの聖体(祭)・初聖体〔茶〕		
	5	日				
	12	日				
	19	日		三位一体の主日(祭)	[幼]卒園式(12日・土)	
7	26	日		ペトロ・パウロ祭〔茶〕	[幼]修了式(14日・月)	
	29	水		聖ペトロ・聖パウロ使徒(祭)		
	3	日				
	10	日		(仮)信徒の集い		
	17	日			[協]玉川通宣教協力体会議(xx日)	
8	24	日			教会委員会(10日12:15~)	
	31	日			合同会議(17日12:15~)	
	7	日				
	13	土				
	14	日				
9	15	月		聖母の被昇天(祭)	[協]玉川通宣教協力体会議(6日)	
	21	日			教会委員会(13日12:15~)	
	28	日		(仮)玉川通合同教会誓儀式(当教会)		
	4	日				
	11	日	●	敬老の日(L)	[幼]終業式(15日・水)	
10	18	日				
	22	木		(仮)教会遠足		
	25	日				
	2	日		(仮)興礼研修会(ミサ:9:30~)	[協]玉川通宣教協力体会議(xx日)	
	9	日			教会委員会(12日12:15~)	
11	16	日			合同会議(19日12:15~)	
	23	日		バザー		
	30	日				
	6	日		死者祈念ミサ	[幼]運動会(1日・土)	
	13	日	●	七五三	[教]赤い羽根共同募金(2日・日)	
12	20	日		王であるキリスト(祭)・馬小屋作り	[区]こどものミサ(9日・日)	
	27	日		待降節第一主日	[区]世界宣教の日(23日・日)	
	4	日		(仮)待降節黙想会(ミサ:9:30~)	[協]渋谷バザー(xx・日)	
	11	日				
	18	日			[幼]終業式(16日・水)	
12	24	土		クリスマスイヴ〔茶〕		
	25	日		主の降誕(祭)・クリスマス〔茶〕		
	31	土		聖家族(祝)	[幼]終業式(16日・水)	
					[幼]終業式(16日・水)	

こよみ

3月

- 3月27日(日) 復活祭10:30ミサ後復活祝賀茶話会
- 3月28日(月) 聖ヨハネ (カピストラノ)
- 3月29日(火) 聖ヨナ、聖パラキシオ兄弟殉教者
- 3月31日(金) 聖バルビナおとめ

4月

- 4月 3日(日) 復活節第2主日 (神のいつくしみの主日)
- 4月 4日(月) 神のお告げ
- 4月 5日(火) 聖ビンセンチオ・フェレル司祭
- 4月 7日(木) 聖ヨハネ・バプティスタ (ラ・サール) 司祭
- 4月10日(日) 復活節第3主日
- 4月11日(月) 聖スタニスラオ司教殉教者
- 4月17日(火) 復活節第4主日 世界召命の日
- 4月21日(木) 聖アンセルモ司教教会博士
- 4月24日(日) 復活節第5主日
- 4月25日(月) 聖マルコ福音記者
- 4月28日(木) 聖ペトロ (シャネル) 司祭殉教者
聖ルイ・マリー・グリニヨン・ド・モンフォール司祭
- 4月29日(土) 聖ピオ5世教皇

5月

- 5月 1日(月) 復活節第6主日 労働者聖ヨセフ
- 5月 4日(水) 聖フィリポ聖ヤコブ使徒
- 5月 8日(日) 主の昇天
- 5月15日(月) 聖霊降臨(ペンテコステ)



あ と が き

- ◇ 主の復活おめでとうございます。今年は桜の開花とともに、復活祭のお祝いとなりました。今年の復活祭は、最も早い時期となりました。
- ◇ 今号の「おとずれ」の巻頭言は、湯澤神父様の「花」と題しての記事を掲載しております。「花」を見ながら、自然を、又、自然を創られた神様を賛美できたらと、説かれています。
- ◇ 3月15日にバチカンの枢機卿会議で、マザー・テレサが9月4日に列聖することがフランシスコ教皇により、決裁されました。
- ◇ 四旬節黙想会の指導司祭コンベンツアレ修道会・谷崎信一郎神父様の詳細な記事を頂きました。
- ◇ 次号「聖霊降臨号」(第61巻 第3号)は、5月15日発行です。



『おとずれ』第61巻 第2号 2016(平成28)3月27日発行
発行 カトリック三軒茶屋教会
編集・印刷 カトリック三軒茶屋教会・広報委員会
主任司祭：ミカエル 湯澤 民夫
〒154-0024 世田谷区三軒茶屋2-51-32
TEL 3421-1605 FAX 3421-9788
<http://home.f05.itscom.net/sancha/index.htm>
sancha-catholic0629@leaf.ocn.ne.jp